

茗台中学校 2年 国語「枕草子」

授業のねらい

- 主体的な音読練習の繰り返しにより、古典に親しみ、内容理解につなげる。
- 冒頭文の暗唱を課題とし、達成感を味わえるようにする。

I C T 活用の工夫

- デジタル教科書を用いて、古典作品「枕草子」の冒頭文の暗唱を行う。
- 授業開始後の5分間を利用し、各自がワーク内の「暗唱してみよう（レベル1～達人）」までの6段階の中から自分に合ったレベルを選択し、学習を進める。
- 「古典のフラッシュカード」を利用した、歴史的仮名遣いの習得練習や資料映像を使用した学習により、古典への理解を深める活動を行う。

生徒の様子

- 家庭でも自由に活動できるため、生徒が各自のペースで何度も取り組み、大変意欲的だった。
- 生徒は互いにレベル1～達人レベルの段階を競い合いながら、暗唱達成に向けて努力する姿が見られた。

成果

- 家庭でも繰り返し練習ができるため、意欲的に課題に取り組む姿が見られ、9割以上の生徒が暗唱することができた。
- 始業前からタブレット端末を起動し、自主的に練習を開始しており、授業への導入がスムーズで、学習意欲が向上した。
- 今回の経験から、徒然草や平家物語の冒頭文暗唱にもタブレット端末を活用し、自発的に努力する姿が見られた。

課題

- 音読による冒頭文暗唱には効果的であったが、記述式になると難しい生徒がいるため、さらなる工夫が必要である。